

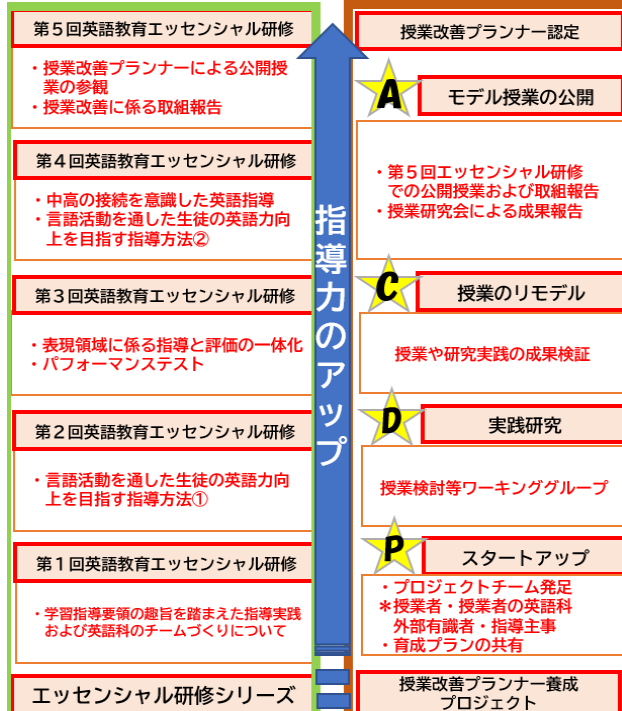
滋賀県教育委員会事務局高校教育課 令和6年7月

令和6年度の高等学校の英語教育では、英語教育インフルエンサー育成プロジェクトを新規事業として立ち上げました。事業コンセプトは、高等学校での授業改善を牽引するインフルエンサーの育成を通し、県の英語教育の充実を図ることです。今回は、同事業の内容を中心に紹介します。

事業の柱

英語エッセンシャル研修&授業改善プランナー養成プロジェクト

英語教育インフルエンサーを育てる二本柱



事業目的

1 英語教育エッセンシャル研修

- ①授業改善の意義と目的を理解すること
- ②授業改善を図るために必要なリソースとスキルの習得
- ③授業改善を進めるための英語教員のネットワークや英語科の組織づくり

2 授業改善プランナー養成プロジェクト

言語活動を通した生徒の英語力向上を目指す授業改善の実践と研究。授業改善の取組を踏まえたモデル授業の公開。

1 英語教育エッセンシャル研修

研修報告など

日程：令和6年6月4日（火）13:30-15:30
 内容：学習指導要領の趣旨を踏まえた指導実践
 講演者：文部科学省初等中等教育局教育課程課
 外国語教育推進室 富永 幸 教科調査官

今年度取り組む授業改善のベクトル合わせを行いました。富永調査官からは、授業改善のキーワード（下記の図A～E）や言語活動における目的や場面、状況の設定の大切さについて具体例を交えながらご指導いただきました。

【授業改善の方向性】富永調査官作成資料より

- A. 生徒の英語による言語活動の充実
- B. 教員の英語使用
- C. 学習状況の評価の充実
- D. 個に応じた指導の充実
- E. 上記のツールとしてICTの活用

外国語教育における学習過程の考え方

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況などを理解する
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの意思を立てる
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

コミュニケーションを行うことによって達成しようとする際の目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境など

「目的や場面、状況など」に応じた言語の運用を考えることで、「思考力、判断力、表現力等」が育成される。

英語教育エッセンシャル研修 第1回の受講者より （今年度英語科全体として取り組みたいこと）

- ◎教科会議の中で英語指導モデルの作成していくのはどうかという意見があった。様々なパフォーマンステストが実践されているが、他の英語教員に共有ができていない状況である。教科会議の中で、そのような実践例を共有し、この単位ではこのパフォーマンステストをするなど、モデルを作っていくこともいいかもしれない。
- ◎今年度は、英語科全体でICTのより効果的な活用に取り組み、その内容を共有する。
- ◎英語授業の改善として、英語科全体で協力して多読や多聴の機会を増やし、実践的な会話練習を重視したカリキュラムを導入したい。
- ◎英語科として生徒に身につけさせたい力、生徒の姿を共有する。各学年ごとでも連携の取れた指導を行い、評価までつなげたい。

研修報告など

2 授業改善プランナー養成プロジェクト

授業改善プランナー：A先生（八日市高校） ・ 伴走者：B先生（八日市高校）

指導助言者：辻 香代 准教授（大阪公立大学）

授業改善プランナー：C先生（国際情報高校） ・ 伴走者：D先生（国際情報高校）

指導助言者：安木 真一 教授（京都外国語大学）

授業改善プランナーの先生方には10月または11月に公開授業を行っていただきます。より良い授業づくりを目標に実践と研究に取り組んでいます。